

JUST NOW JATS

特定非営利活動法人 日本胸部外科学会



CHALLENGE FOR THE FUTURE!

14

2012-01

年頭の挨拶

理事長就任にあたっての所信

理事長 坂田 隆造

あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、2012年の新春はことのほか感慨深いものがあるうかと推察申し上げます。昨年3月11日の東日本大震災で思い知らされた、凄まじい自然の破壊力、被害の甚大さ、被災地の苦難。衝撃のあまりの大きさに日本は再び立ち上がるのかと悲観に覆われました。しかし直後から国中で、世界から溢れるように広がった力強い支援の輪は、倫理の欠如を言われて久しい現代人も惻隠の情までメルトダウンした訳ではなかったことを示して、復興を期する日本の将来に希望をいだかせるものでありました。一方、人々や民間企業の腹の据わった力強い復興への足取りとは対照的に、政治の混乱と無策はあまりにも無様であり、福島原発事故及びその対応で露呈した日本中枢の陰湿な醜悪さは国民の復興への意気込みを甚だしく削ぐものでした。共通するのは立場を弁えぬ不誠実です。

さて2012年新春、我々にはもかわらず、今年こそ喜ばしい年なれと年頭に立っています。

田林理事長の任期満了に伴い、理事会にて理事長に選任され、第64回日本胸部外科学会学術集会の総会にて承認いただき、ありがとうございます。伝統ある本学会の理事

長を拝命し、光栄であると同時にその任の重さを痛感しております。田林先生は基本理念として、心臓血管外科・呼吸器外科・食道外科の3分野総合学会としてその特徴を充実させ、学会員の期待に応え

ると共に、日本の医学会を先導する学会を目指すことを掲げられました。そして理念を実現すべく数々の方策を立案されました。これらの方策はすべてにおいて前進または進化した、あるものは実現し、あるものはその途上にあります。私もこの基本理念を踏襲し、実現に向けて邁進したいと決意しております。この理念を言いかえると、1. 学会員の期待に応えるような形で、2. 日本の医学会を先導する学会を目指して、本学会を充実させる、ということになります。そして本学会の本質を成すものは定期学術集会と学会誌であります。

1. 定期学術集会の質の向上

学会の最大事業である定期学術集会の質を高めていくことが揺るぎない第一義の目標となります。

定期学術集会の演題採択率はここ数年厳しさを増しており、演題応募者には高いハードルとなっています。しかしその分、発表者は大きな喜びと誇りを持つようになり、採択論文の質も年々向上しています。これまでの学術集会に対する学会の取り組み

が正当であった証であり、定期学術集会の質の向上は今後も重要な課題であり続けます。

さて、これまで学術集会のありようは学術集会委員会の事項として扱われ、教育プログラムは研究・教育委員会が、Post graduate courseのAATS、EACTS講師は国際委員会が、というように該当委員会がその都度対応していました。しかし本体の学術集会委員会は本学会学術集会の過去2〜3年の会長経験者、同学術集会幹事経験者、他の関連学会学術集会の会長経験者などで構成されており、本学会学術集会を経年の連続的な事業としてスムーズに継承させるには有益でありましたが、学術集会のあり方そのものを考えるには不十分であったように思われます。なによりも将来を担う若手の意見が反映されにくく、委員会構成を見直して本来の学術集会委員会の役割に継続的に集中的に打ち込める体制をつくりたいと考えております。

2. エビデンスの発信・学会誌の質の向上

この目標は本学会にとって1.の学術集会の質の向上とともに車の両輪となるものです。本学会の手術成績は欧米を凌駕するまでに向上したものの、エビデンスの発信力はまだまだ発展途上であります。日本胸部外科学会雑誌は英文

とすることで質向上の第一歩を踏み出しましたが、更なる努力が必要です。日本の胸部外科関係の実力を示すことが目的なら、本学会構成員がそれぞれの立場で諸雑誌にエビデンスを発信し続けることも有益ですが、本学会にとって重要なことはそれらが学会誌を通して発信されるようになることです。学術集会での発表が構成員に喜びと誇りをもたせて評価されるのと同様に、論文の学会誌掲載がその質の証明であると認識されるようにすることが本学会の地位向上に必須の事業です。このことはまた欧米の関係学会との関係を対等なものにする本質的な方策でもあります。

会誌編集委員会では三好前委員長のもと精力的にこの問題に取り組み、進むべき道は明示されました。学会誌の質の向上を最大の目標として前進したいと思えます。

3. 学術調査

本学会は構成3分野の手術内容と症例数に関する学術調査を1986年より開始して既に25年のデータ収集を積み重ねています。この学術調査の示すところは、3分野の手術成績の着実な向上であり、最近の成績は欧米を凌駕するものとなっています。本学会の診療技術向上を目ざした絶えざる努力の賜物であり、我々は誇りを持って世に公表していくべきでしょう。このことは正当な評価に立脚した構成員の地位向上に資することにもつながります。学術調査のもう一つの成果は診療のクオリティコントロールの役目も果たしてきたことです。

日本全国で行われる胸部外科手術のほぼ全例を成績も含めて本学会が把握している事実には驚くべき成果であり、それは診療の逸脱の早期発見・抑止力となり、示される手術成績は質の向上に大きな寄与をしています。

田林前理事長の最重要方針の一つであった「学術調査の有用な活用」は胸部外科3分野の手術症例数と成績の公開として結実しました。本学会がプロフェッショナルリズムを掲げる学会として公共といかに関わるかの議論のなかでどのような公表の仕方がより望ましいのかも考えていきたいと考えます。また学術調査結果に基づいた医療の質のコントロールも重要な課題です。

4. 医療安全・倫理

胸部外科学と医療技術の発展の美名のもとに、医療安全・倫理が置きざりにされてはなりません。医学は学問としての、あるいは技術としての自律的發展に身を委せて走り続けるものでなく、成果が国民の健康と福祉に寄与するかどうかを不断に検証すべき宿命をおっています。検証のためには、進歩と称される変化に足踏みする忍耐と自らを省みる勇气が必要です。医療事故を防ぎ、事故には誠実に対応し、原因を真摯に探し求めて再発防止に努めることの重要さは、最近の本学会医療安全講習会でも常に取り上げられていますが、このことは本学会員が医療に内包される社会的責務―忍耐と勇氣―を心底認識する第一歩を提示するものであり、重要な施策として今後も継続します。

5. 専門医制度

本学会は「胸部外科専門医」制度を有しませんが、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、食道外科専門医の3つの専門医制度がかかわっています。この関与の度合い・重要性は一つに本学会の質に依存しており、それは、本学会の関わる専門医制度の信頼度につながるものであります。これらの専門医制度は、それぞれの関連学会との協同で設立された心臓血管外科専門医認定機構、呼吸器外科専門医合同委員会、日本食道学会で構築・整備されて日本で最も充実した専門医制度になりつつあります。今後は専門医の質、専門医を目指す修練医の教育の質の評価が課題と考えます。

6. 胸部外科医の処遇改善

処遇改善委員会で胸部外科医の処遇実態調査が行われ、政策検討委員会でも専門医に対するドクターフィーに関し、提言を行ってきました。しかし具体的成果を得るにはまだ道半ばで、今後も継続的に努力していく所存です。胸部外科医の処遇改善の一環としても位置付けられていた、チーム医療推進委員会の「特定看護師」創設へ向けての活動が実を結びそうです。「看護師特定能力認証制度」の2013年度開始を目指し、本年の通常国会に厚労省より法案が提出される見込みです。この法案が実現するとチーム医療の実質が充実して医療の質が向上し、胸部外科医は本来の業務に時間を割くことができますと期待されます。

これからの理事長としての任期2年間、事業の継続と改革を合言葉に各委員会の知恵を借りながら本学会の発展に尽したいと考えております。会員の先生がたのご意見、ご支援をいただき皆様に信頼され満足いただけるような学会にすることを目指し、新年のご挨拶と所信表明といたします。



坂田隆造
(京都大学大学院医学研究科 器官外科学講座
心臓血管外科学 教授)

1975年3月 京都大学医学部卒業
1975年6月 京都大学医学部第二外科入局
1982年7月 Institut Mediteraneen de Cardiologie, Unite de Chirurgie Cardiovasculaire, Clinique de la Residence du Parc (France)
1984年4月 Centre Medico-chirurgical de la Porte de Choisy Unite de Chirurgie Cardiovasculaire (France)

1985年6月 社会保険小倉記念病院心臓血管外科(医長)
1988年6月 国家公務員等共済組合連合会熊本中央病院心臓血管外科(医長)
2000年1月 鹿児島大学医学部外科学第二講座教授
2008年8月 京都大学大学院医学研究科器官外科学講座心臓血管外科学教授
2011年4月 京都大学医学部附属病院副院長

趣味：ゴルフ、読書 好きな言葉：空

胸部外科今昔

心臓血管外科の立場から

名誉会長 古賀 道弘

1. はじめに

私は昭和30年より約32年間、心臓血管外科を専攻し、第38回日本胸部外科学会（昭和60年）を主催させていただきました。今度広報委員会より「胸部外科の今昔」の執筆依頼がありました。私は90才となり、体力、知力も衰え、興味をそそるような記事が書けないかと危惧しますが、取って私の歩いて来た道を述べさせていただきます。

私の学生時代、外科研修時代：私は学生時代、勉学よりスポーツ特に剣道に熱を入れ、中学修猷館時代は昭和13年西日本剣道大会（今の玉龍旗戦）で優勝し、昭和15年第五高等学校時代皇紀2600年奉祝全日本剣道天覧試合に熊本県代表として出場する栄を得ました。大学時代は大東亜戦争真只中で戦況はいよいよ不利になり、学徒動員令が

発せられ、大学生は卒業前に出征しました。ただ医学部学生は軍医の仕事の為、動員は免れましたが、4年間の学期は3年に短縮され、仮卒業で入隊した。私は軍隊は海軍を選び、昭和20年3月、戸塚海軍医学学校に入学し3ヶ月後に嬉野海軍病院に配属された。昭和20年8月負戦となり、早期に退隊大学に帰学した。後でわかったことですが、東大三枝、名大弥政、三重大久保、各教授は軍医学学校で同期生でした。

大学卒業後九大第一外科に入局し、始めは石山教授、次いで三宅教授に師事し、一般外科、消化器外科に従事しました。終戦後我国の医学はドイツ医学に代わりアメリカ医学が導入されたが、外科の分野では、胸部外科が著しく劣っていると感じられた。

昭和30年当時九大第一外科の助教であった西村先生が久留米大学第二外科を創設され、私は助教として数人の教室員と同行し、教室作りになりました。

2. 久留米大学第二外科時代（昭和30年～40年）

西村教授は胆石外科が専門でしたが、昭和28年心臓外科研修の為、1年間米国に留学し、帰国後九州では初めて心臓外科を行われた。久留米大学ではDCA手術、Bleed-out手術、僧帽弁狭窄等の閉鎖的手術が行われていたが、心臓手術症例は少数で成績も良好ではなかった。昭和33年九大第一内科より循環器内科の権威である木村教授が第三内科を創設され、九州全域や周辺よ

り心臓病患者が続々と集まり、特にリウマチ性心臓病で僧帽弁狭窄症は多く、西村教授は独自の考案になるカフ型拡張器を用いて交連切開術を行い、秀れた成績を上げ、学会で高く評価されました。

当時我国では関東、関西に於いて開心術の研究が盛んに行われ、昭和30年には開心術の臨床成功例が報告された。九州では5年遅れて久留米大学に於いて、昭和35年に初めて開心術が行われた。症例は15才のASDで、体外循環は東京女子医大方式で低体温併用体外循環で人工肺は織煙式で体外循環時間は15分であった。以来、開心術は徐々に増加し、人工肺はスミの8%式回転円板型、ディスプレイサル気泡型へと移行し、体外循環時間は初め15分から30分、1時間へと延長することが出来た。

昭和40年に西村教授は九大へ業転され、後任に私が就任し、22年間心臓血管外科の臨床と研究に従事することになった。

3. 昭和40～62年の教室の心臓外科

私の心臓外科に対する方針として、1. 開心術を積極的に行い、手術成績の向上を図る 2. 内科と外科は一体となつて治療に当たる。従つて、術前、術後は内科に一任し、外科は手術のみに当たることになる。そして週1回心臓カンファランスを行い、教授以下担当医師が出席し、数十名に及ぶ術前患者の紹介と手術適応の決定、手術所見の報告が行われ、手術死亡例の検討など、数時間に亘り討論が行

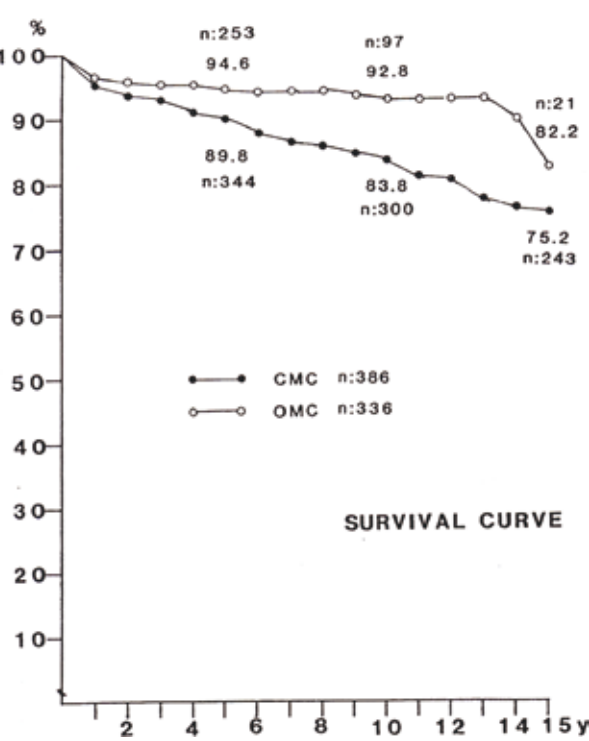


図1. CMC OMC累積生存率

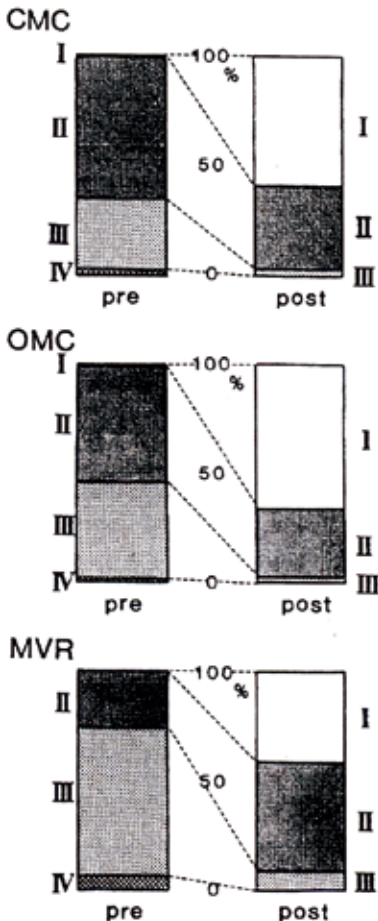


図2. 術後NYHAの推移 (CMC、OMC、MVR)

4. 人工心肺や超低温法について

開心術は、昭和28年頃より先輩達の血のじむような研究が行われた後、昭和30年頃より臨床に行われるようになった。方法は平温又は低体温併用体外循環や、脳幹灌流法であり、症例の増加と共に成績も向上し、循環時間も15分～30分～1時間と進展するこ

とが出来た。ここに特記すべき事として、東北大、岩手医大に於いて行われた、超低温法による開心術であり、20℃の超低温法で、循環停止時間1～2時間の手術で、成績も人工心肺使用例よりも優れており、昭和36年第14回日本胸部外科学会に於いて榊原会長より責任者の岩手医大岡村氏に最優秀研究として表彰されたが、我国の誇る研究でありました。

5. 後天性弁膜症、特に狹窄症の長期成績について

昭和30～59年までの手術症例は、大多数がリウマチ性心臓病であり、リウマチ熱の減少により症例は漸次減少し、代わって非リウマチ性が増加している。年齢的には徐々に上がり、昭和49年までは平均32才であったものが、昭和58年以降では50才となり、59年では55才以上が26%となっている。手術を行った全症例は1、706例で、僧帽弁疾患が1、

6. 心臓手術成績の向上の要因

我国の心臓血管外科は、終戦後欧米に著しく遅れていたが、先輩、同輩諸氏のためまざる努力により、今日の如く世界のレベルに達することができた。その要因として、1) 診断法の高度の進歩、2) 人工心肺装置の改良・特に膜型肺の開発、3) 心筋庇護法の導入、4) 肝炎ウイルスの発見、5) 医療材料、手術器械の進歩、などがあげられる。

これからの外科医は創意工夫により、心臓外科の更なる発展を期すると共に、患者との接触を密にされる事を切望します。

7. おわりに

近年我国の心臓病の診断、治療は著しい進歩をとげ、以前は心臓手術は大病院が中央の公共大病院、研究所に限られていたが、最近では地方の多くの病院に於いて容易に行われるようになった。ただ心配な事は、医師は優れた検査法に頼り、患者、家族との接触を軽視する傾向があり、これが術後トラブル発生の危険があると思われる。



古賀道弘
(聖マリア病院 顧問)

卒業大学：九州大学医学部
1945年10月 九州大学医学部第一外科入局
1952年2月 文部教官
1955年10月 久留米大学医学部助教授
1965年7月 久留米大学医学部教授
1980年2月 日本心臓血管外科学会会長
1985年10月 日本胸部外科学会会長
1987年3月 定年退職
1987年4月 聖マリア学院看護大学教授
1992年4月 聖マリア病院顧問

趣味：ゴルフ・水墨画 好きな言葉：努力

若手医師の立場から

専門医を取得されている、もしくは取得を目指す若手の先生方に、日々感じていること、将来の目標などを語っていただきました。

私が食道外科と最初に関わったのは初期研修の際に、現在所属の第一外科において食道チーム（チーフ・加藤広行現獨協医大教授）で研修医として働いたときです。その際は医師になって間もないこともあり、訳も分からず過ごす毎日でしたが、そんな中でも食道外科は胸部操作はもちろんのこと、腹部操作も頸部操作もありで、手術のダイナミックさという点からも外科の醍醐味を味わうことのできる分野であり、食道チームはまさに専門・職人部隊だと感じていました。

第一外科に入局後は関連病院で外科研修をさせて頂きました。ここでは食道外科と関

わることはほとんどありませんでしたが、大学病院のようにほぼ臓器別になっている外科もあれば、所謂消化器内科の仕事も兼ねている外科、多くの腹腔鏡下手術を特徴としている外科と、幸いにしてそれぞれ特色ある病院で尊敬できる諸先輩の下で経験を積ませて頂いたことが、今の自分の診療の土台になっていると思っています。

食道外科との再会は3年間の後期研修を経て大学院に入学する際に、桑野博行教授から「鈴木君は食道チームだな」と言われたときです。食道チームに配属されてから現在ま

で食道癌の発生・進展をテーマに研究をメインでやっておりますが、手術では頸部郭清や胃管作成などを手伝わせてもらい、手技も徐々に覚えてきたところです。また、学会発表の機会も多くあり、大変いい経験をさせて頂いております。

本先生にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。岡山大学病院心臓血管外科講座は佐野俊二教授の元、年間300例以上の小児開心術を行い、その大部分が複雑心奇形という大学病院としては稀な施設です。小児では、年齢と右左シャントによる低酸素の影響で心筋の代謝は成人と異なるはずですが、未解明な部分が多く、小児でも成人の心筋保護法を概ね代用しているというのが現状です。低酸素下で発達した心筋の虚血に対する反応を知ることが重要と考え、本実験を行うに至りました。

小児に適した心筋保護法の開発を

本実験では、低酸素に生後から長期間暴露された心筋は虚血後再灌流後早期の心機能回復が良いですが、同時に虚

血前のmyocardiumが低い、冠動脈血流が多い、右室肥大、CMR産生が多いといった低酸素に伴うと思われる変化も認め、やはり成人の心筋とはだいぶ条件が異なるものと思われました。今後も研究を進め、小児に適した心筋保護法の開発に繋げることができれば良いと考えております。

堤 浩二

優秀論文を受賞して②
Risk factor analysis for acute type A aortic dissection after aortic valve replacement. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2010; 58:601-5.

大動脈弁置換術後の生命予後への影響

本論文は、大動脈弁置換術が必要な症例の中で、術後遠隔期にStanford A型急性大動脈解離を発症する症例の予測危険因子について分析した臨床研究です。手術を必要とする大動脈弁疾患症例の中には、長年続いた圧負荷や容量負荷、さらには、遺伝的な素因のため上行大動脈が拡大した症例が少なからず認められます。そのような症例を追跡調査してみると、術後遠隔期に急性大動脈解離を発症し生命予後に大きな影響を与えることが判明してきました。一方でそのような症例に対して、大動脈弁置換術のみを選択するか、上行大動脈も同時に置換するかという治

最後になりましたが、当講座の佐野教授を初め、実験のご指導を頂いた石野先生・藤田先生、忙しい診療業務の中で実験のための時間を作って下さった医局の先生方、そしてこの栄えある賞を下さった、編集委員、選考委員、胸部外科学会会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

優秀論文を受賞して③

Advantage of absorbable suture material for pulmonary artery ligation

低侵襲手術を追及

この度は栄えある日本胸部外科学会優秀論文賞を受賞させて頂いたいただき、身に余る光栄と存じます。



見前隆洋
(広島大学大学院 医歯薬総合研究科 創生医科学専攻 放射線ゲノム医科学講座 腫瘍外科 大学院生)
卒業大学：広島大学
2003年 広島大学医学部卒業 広島大学原研研腫瘍外科にて研修
2004年 広島市立広島市民病院 外科 研修
2006年 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 外科 レジデント
2008年 広島大学大学院 医歯薬総合研究科 創生医科学専攻 放射線ゲノム医科学講座 腫瘍外科 大学院生
2009年 東京大学医科学研究所 癌・細胞増殖部 人癌病因遺伝子分野 国内留学
2011年 広島大学大学院 大学院生
趣味：野球観戦（中高大学時代は野球部で、ポジションはセンターでした。）
好きな言葉：努力、バランス



鈴木茂正
(群馬大学大学院病態総合外科学)
2004年 群馬大学医学部卒業
2004年 群馬大学医学部付属病院（初期研修）
2006年 群馬大学大学院病態総合外科学（第一外科）入局 伊勢崎市民病院外科
2007年 公立藤岡総合病院外科
2008年 群馬県済生会前橋病院外科
2009年 群馬大学大学院医学系研究科入学
趣味：娘と遊ぶ、野球、ランニング
好きな言葉：夢を追え（若田光一）

2011年度 日本胸部外科学会 優秀論文賞

受賞者の声

優秀論文を受賞して①

藤井 泰宏

Tolerance of the developing cyanotic heart to ischemia-reperfusion injury in the rat

忙しい中、執筆して頂いた山

この度は、私の論文が栄えある日本胸部外科学会優秀論文賞を受賞させて頂き、大変光栄に存じます。また、掲載にあたり、秋田大学医学部外科学講座心臓血管外科教授の山本文雄先生に「Metabolic characteristics of immature heart」と題した3ページに渡るコメントを当論文に対して頂く栄誉にも預かりました。お



藤井泰宏
(岡山大学病院心臓血管外科（現在Stanford大学留学中））
卒業大学：岡山大学
2001年 岡山大学医学部医学科卒業
2001年5月 岡山大学病院 研修医
2001年8月 国立岩国病院 外科研修医
2003年8月 福山市民病院心臓血管外科医員
2004年8月 岡山大学病院心臓血管外科医員
2009年9月 岡山大学医歯薬学総合研究科卒業・医学博士取得
2011年7月 Stanford 大学小児心臓外科Research Fellow
趣味：旅行、スキューバダイビング、ゴルフ
好きな言葉：生きるとは喜ぶかな、この一瞬を完全に生きるべし。青春は麗し、されど過ぎ去る。楽しみてあれ明日は定め無き故。（ロレンツォ・デ・メディチ）



堤 浩二
(独立行政法人国立病院機構東京医療センター心臓血管外科)
卒業大学：防衛医科大学校
1991年3月 防衛医科大学校卒業
2001年4月 慶応義塾大学大学院医学研究科博士課程単位取得退学
2008年4月 栃木県済生会宇都宮病院心臓血管外科
2010年3月より現職
趣味：ハイキング
好きな言葉：車到山前必有路

患者の利益に繋がる研究を手術が低侵襲であること、これは何より患者の利益に繋がります。本研究もそれを目的として計画されました。臨床医学でも基礎医学でも常に有用な医療提供が模索されなければなりません。思えば私が医師となる時に現在の医局を選んだのも、患者の事を考えて病床に足を運び、加

最後にになりますが、私はまだ若輩者ですが、今後日本胸部外科学会を通じて日本の呼吸器外科の発展に少しでも貢献できればと思っております。この度の受賞におきまして、編集委員会や選考委員会、日本胸部外科学会の会員の皆様、また、論文作成の指導や協力をして頂いた皆様にこの場を借りまして心より厚く御礼申し上げます

サマースクール

2011

心臓血管外科・呼吸器外科

サマースクールを終えて

日本胸部外科学会は日本心臓血管外科学会ならびに日本呼吸器外科学会との共催で、心臓血管外科サマースクール・呼吸器外科サマースクール2011を今夏開催した。前者は8月20(土)～21日(日)、後者は8月6(土)～7日(日)の2日間にわたり、富士山を望む風光明媚な神奈川県秦野市のテルモメディカルプラネックスにおいて開催された。対象は医学部学生・初期研修医で、当日は猛暑にもかかわらず全国各地から参加者が心臓血管外科スクールには135名(内訳：医学生34名、初期研修医65名、インストラクター36名)、呼吸器外科スクールには105名(内訳：医学生33名、初期研修医34名、インストラクター38名)にも上り、大盛況であった。今回は3月の東日本大震災、それに続く計画停電等が重なり当初は開催も危ぶまれたが、多くの方々のご協力で何とか開催にこぎつけることができた。あらためて感謝申し上げたい。

このサマースクールの目的は心臓血管外科、呼吸器外科の魅力、やりがい等を若手に伝え、胸部外科医の減少を少しでも食い止めることである。これを契機に一人でも多くの心臓血管外科医、呼吸器外科医が育つことを期待したい。以下にスクールの様子や受講者の感想を紹介したい。若手育成ワーキンググループ

委員長 小川純一

心臓血管外科サマースクール2011

心臓血管外科の魅力を若い世代に伝えたい!

2011年8月20日(土)～21日(日)



では気づかない注意点とか、難しさとかを実感でき、何気なく見ているよりもはるかに術者は気を遣い、また、この先の患者の予後に関わる責任を背負っていることがわかりました。これからAVCの手術に入る時には今までと違った視点で術野をみることできそう

です。簡単にやっているように見えた1針1針が、いざ自分でやってみるととても生きた患者さんにはできないような有様であり、悲しかったですが、この気持ち忘れずにこの先知識も技術も成長していきたいと思いま

した。また、周囲に心外志望の同年代の人、特に女性が少ないので、この会で同じく心外を志す女性医師と交流ができたのも大変参加した甲斐がありました。日本のトップの先生方、同世代の若手医師と接する事で、今後のとても良い刺激を受けることができました。どうもありがとうございました。

■大変有意義な時間を過ごせました。現在の日本の心臓血管外科のトップクラスの先生方から直々にご指導いただき、またその技を拝見できたのは、今後心外を志していく中でとてもためになることだったと思います。

著名な先生方がとても気さくに話しかけてくださり、質問に答えてくださるという普段では考えられない状況、経験ができました。

ウェットラボではいつも第3助手くらいで見ているだけのAVCを実際にやらせてもらう事で、ただ見ているだけ



ございました。

■パンフレットなどの建前と違って諸先生方から本音を聞けてロールモデルが想像しやすかったのが1番良かったのかもしれない。

ウェットラボが楽しかったというか勉強になったのは言うまでもありません。

1人前になるのに10年以上かかるという理由が、実習を通して学べたのが良かった。

2日間を通して、心臓外科の魅力は理解でき、良い2日間だった。ただ、忙しすぎたのもう少しゆとりを持った日程でも良いと思います。

■考えること、手を動かすことが好きなので将来は外科医になりたいと思っています。ウェットラボでの実習は丁寧な指導のもと、とても楽しく勉強させていただくことができました。心臓外科の研究分野はうちの大学では静かで聞く機会がありませんでした。将来は研究も考えているのですが、今までは心臓外科に進んだら盛んに研究はできないと思っていたいました。しかし、今回のサマースクールに参加して、手術も研究ももいっすりできる分野なのだと知り、感動しました。ありがとうございました。

■今回のサマースクールに参加することができてほんとに良かったと思います。僕自身、心臓血管外科に大変興味があったのですが、厳しい仕事であるということ、今後外科領域が狭くなるのではないかと不安があったので、この道に進むことに迷いがありませんでした。しかし、今回色々な先生方に話を聞いて、心外の良いところや悪いところも含

め、貴重な話が聞け、迷いが消えました。どの先生も情熱にあふれておられ、僕もこの科で勉強して先生方のようになりたいという思いになりました。

貴重な講演からライブデモンストレーションまで1つも飽きることはない楽しい時間でした。ただ、ウェットラボではAVCなど難しい手技ではもっと丁寧な説明・解説が

欲しかったです。(中には4、5年生の参加もあったようなので) 2回目があればぜひまた参加したいです。ありがとうございました。

が聞けました。

また、肺移植は初めて拝見致しました。肺はすぐに感染が付いたりして移植は難しいというイメージがあったので、非常に貴重な経験となりました。

最後のランチオンセッションも、質問しづらくて、実際に質問できなかったのですが、まさに質問したかったことをピンポイントで小川先生が代わりに聞いて下さっていて、とてもありがたいと感じました。普段、とても聞きづらいこと(収入、やりがい、今後の展望等)を聞けました。終わって、羽田空港に向けて帰る際、一緒に同じ大学から参加していた友人と楽しかったサマースクールのことをずっと語っていたのは言うまでもありません。本当に充実の1泊2日でした。

ただ、不満を申せば縫合コンテストで上位に入らず、移植に手洗いで入らせていただく事が出来なかったことです。たくさん練習して必ず来年は勝ちたいと思っています。本当に素敵な時間でした。企画、運営本当にありがとうございました。

■今回のサマースクールで、私は実習生兼事

呼吸器外科サマースクール2011

肺の手術にトライしてみよう!

2011年8月6日(土)～7日(日)



■先日は秋田大学呼吸器外科の皆様が事務局をされていたという素晴らしい会に参加させて頂きました。

普段の自分の大学での呼吸器外科の実習とは異なり、実際に自分で自分の手を動かしながら行った豚の心肺を使っ

た葉切は初めての経験で、あっという間に時間が過ぎ去ってしまいました。夜の懇親会でも、たくさん的高名な先生方に呼吸器外科の魅力について語っていただいたり、多大学の同じ学生とも交流を持てたり、研修医の方に働いてみるの事など様々な事





今回のサマースクールでの経験は、将来、外科医として医療に従事する上で非常によい刺激を与えてくれました。また、将来に同じ志をもつ仲間を作れたことや将来お世話になるであろう先生方と知り合えたことも大変貴重な財産となりました。そして、このような全国規模のサマースクールに事務局スタッフとして関わることができたことに感謝しております。今後も日本の医療に貢献すべく、日々努力していく所存です。

■このたびはお世話になりました。今回のサマースクールに関しては、当院からの参加研修医3名お世話になりましたが、全員が満足して帰ってまいりました。もともと外科系には興味がある者ばかりでしたが、呼吸器外科の魅力も伝わったようです。有意義な会でした。私自身にとっても移植関連の話や手術ライブは勉強になりました。研修医のみならず呼吸器外科専門医にも満足いくプログラムであったと思います。ぜひ来年以降も継続していただければと思います。その際には、またお声をかけていただければ喜んで参加させていただきますと思います。

■この度の呼吸器外科サマースクール2011の企画に参加させていただきまして、誠にありがとうございます。たいへん良く準備、企画されたプログラムで、当科関係の学生、研修医がたいへん喜び、刺激を受けておりましたのが印象的でした。また他の大学の先生方や研修医、学生と出会う機会をいただき、とても刺激になりありがたく存じております。サマースクール2011事務局の皆様方に、心より感謝申し上げます。

プレスリリース

本学会学術調査結果に基づいた手術成績の公開と本邦における治療成績評価に関する提言

理事長 坂田隆造

公共に対する学会の姿勢を示す

去る10月9日から開催された第64回日本胸部外科学会定例会学術集会（上田裕一会長）の期間中に「日本胸部外科学会学術調査結果に基づいた手術成績の公開」と「本邦における治療成績評価に関する提言」と題して学会からプレスリリースが行われた。出席者は田林前理事長、安元、桑野、横見瀬、坂田の各理事であり、参加した報道機関は11社、フリージャーナリスト1名であった。この会見は田林前理事長在任中の一大テーマであった「学術調査結果の有用的活用」の第一ステップ報告を兼ねて、公共に対する学会の姿勢を示す目的で設定されたものである。会見では、本学会の学術調査は長年継続しており、「信頼に基づく医療」を

く正確に社会に公開してゆくのが本学会の責務、と考える理事会の意志を表明した。本学会の学術調査は包含する「心臓胸部大血管外科」、「呼吸器外科」、「食道外科」の3分野について1986年以来毎年全国規模で実施されていること、会員の絶大な協力と尽力により経年的「継続性」と幅広いデータ集積と高い回収率による「網羅性」において国内外から高い評価を得ていること、更にこの学術調査が胸部外科手術の質の向上に寄与し、最近では本邦の手術成績は欧米を凌駕するまでに向上していること、などを背景として説明した。

3分野の手術成績向上と現状

学術調査の経年的分析に基づいて3分野の手術成績向上と現状を次のようにまとめた。(1)心臓血管外科①心臓大血管手術総数は年々増加、②CABGは漸減、弁膜症手術は漸増、30日死亡率は0・8％、2・0％と安定しており、米

果を解釈する上で①手術症例のリスク補正が行われていないデータに基づくもの、②症例数の少い施設の成績は統計的信頼度が低い、ことに留意

することが重要と注意を喚起した。最後に、「施設名を伏せて代表的手術について施設ごとに症例数と死亡率を公表する」提案が90％以上の施設

で諸とされ、12月中旬に公表すると表明した。会見の後、活発な質疑応答があり、数社が報道したが概ね肯定的内容であった。

日本胸部外科学会における

女性医師支援

東京女子医科大学心臓血管外科 富澤康子

医学会分科会110学会において男女共同参画や女性医師支援は、3年前に比べて少し進展しているように感じます。2011年、「男女共同参画・女性医師支援委員会」の名称の下部組織は22学会、小委員会は4学会、外部団体は6学会にできています。日本胸部外科学会には外部団体「女性医師の会」があり、今年の第64回日本胸部外科学会定期学術集会時に第6回の会を開催することができました（写真）。また、学会の招待演

者に女性外科医 Ms. Anne Leong 先生が招かれ、女性会員が初めて司会をさせていただきました。上田裕一会長のお心使いに感謝いたします。会に参加してくださった Ms. Mike 先生が、スウェーデンでは男性の産休が短く1週間しかないので長くするように活動しているとおっしゃっていました。海外の女性外科医の活動とその環境を知ることができたのは勉強になりました。

本学会では現在、3000名の評議員のうち、非選挙の女性評議員が1名います。全委員会委員計150名のうち女性委員は2名です。川筋道雄処遇改善委員会委員長が本学会での女性会員の増加が加速していることを指摘しておられますが、学会の役員、評議員、特に意思決定に女性の視点も必要と思われる専門医制度関連、倫理、教育、等の委員会の女性委員は皆無です。女性委員を1名、各委員会に追加していただき、労務環境改善および継続就労に関わる意見を述べる場を増やしていただければ幸いです。

日本胸部外科学会

前理事長 田林 昶一 先生

近年、医師国家試験者合格は毎年7600〜7700人程度であり、死亡等を除いても医師数は毎年3500〜4500人程度増加していると報告されている。女性医師の割合は約30％とされており、約2300人の女性医師が毎年誕生していることになる。この割合は今後、増加する事が予想されており、男女の性別を除外視したチーム医療が重要と思われる。いわゆる、チーム医療では「専門医志向」、「職種構成志向」、「患者志向」、「協働志向」の4つの要素が最大値を取る地点が理想型と言われており、その方向性を目指して努力していく必要があると思われる。チ

ーム医療はユートピアではなく具体的な業務遂行の在り方であり、そこから女性医師との協働は生まれてくるように思われる。

第64回日本胸部外科学会

会長 上田裕一 先生

第64回定期学術集会の会期中、10月10日の夕刻に第6回「女性医師の会」が開催され、会長の私も聴講の機会を得ました。今回はシンガポール大学から招請講演のため参加された Kristine Teo 先生が、英国の女性胸部外科医の現状についての話題提供をされ、さらに Doug Leeson のためスウェーデンから来日された Pia Mcken 先生も参加されて、活発な会合でした。今後は学術集会とのコラボレーションも図り、多くの参加者が集う会となることを願っています。

日本胸部外科学会

処遇改善委員会委員長 川筋道雄 先生

医学部入学者に占める女性の割合は約3分の1となり、全医師数に占める女性医師の割合は増加傾向で、平成20年に18・1％です。日本胸部外科学会では、平成20年の医師会員7540人のうち259人（3％）、新入会医師203人のうち23人（11％）が女性医師でした。平成23年に女性会員4％、女性新入会員16％に増加しています。日本胸部外科学会では外科医の処遇改善に取り組みんでおり、関連学会と密に連携して、女性医師支援を進めていきます。

第42回日本心臓血管外科学会 学術総会開催にあたって

第42回日本心臓血管外科学会学術総会を、秋田県秋田市で2012年4月18日から3日間開催させていただく予定です。北東北で本総会が開催されるのは、第36回が岩手県盛岡市で、川副浩平会長のもとで開催されて以来、2度目であり、秋田大学が主催させていただくのは本総会が初めてであります。大変光栄であり、先輩諸氏並びに会員諸兄に篤く御礼申し上げます。本総会のテーマは「医療再考―先端医療の地方での展開」といたしました。1970年代までは、大学病院を代表とする大きな病院でしかできなかった心臓大血管手術が、体外循環、心筋保護法の進歩により、安定した手術成績が得ら



山本文雄
(秋田大学大学院医学系研究科機能展開医学系心臓血管外科学講座 教授)

卒業大学：鳥取大学
1975年3月 鳥取大学医学部卒業
1975年4月 鳥取大学医学部医学系研究科(第2外科) 入学
1979年3月 同上 終了 (医学博士)
1981年4月 London大学St. Thomas' Hospital 胸部心臓外科留学
1983年4月 国立循環器病センター 心臓血管外科
2000年9月 秋田大学医学部心臓血管外科 教授

趣味：ゴルフ アユ釣り
好きな言葉：義を見てせざるは勇無きなり

れるようになり、1980年代に入りますと、地方の基幹病院でも可能となり、今現在では、500余りの施設が心臓血管外科を標榜し、日常診療がなされています。その一方で、医療過誤の発件数も右肩上がりが増加、最近では、手術成績も論じられるようになってまいりました。日本心臓血管外科学会も、この点に着目、手術成績の調査を行い、少数手術施設に著しく成績不良な施設が存在することから、こういった施設の集約化を視野に入れた対策を講じることとなりましたが、この対策は地方において医療の平等という産物もたらしかねないことがわかってまいりました。そこで、たとえ地方にあっても、良好な手術成績の維持のみならず先端医療が遂行できるように、努力していかなければならないことから、本学術総会を通して、参加された先生方が、先端医療を吸収し、それを持ち帰って、地方での医療に展開に役立てていただきたくこのようなテーマとした次第であります。さらに、1980年代から1990年の前半までは、心筋保護法のテーマで数多くの演題が発表されてきましたが、近年では、ほとんど皆無に近く、「果たして現状の心筋保護法が満足できるものであるか否か」を問うシンポジウムを企画いたしました。また、これまで、最先端医療にばかりに目が行きがちでありました点から、視点を変え、ルー

チンに行われている手術に関して、手術適応を再考すること、手術死亡を0にできないか、こういった観点からも考えることに致しました。いずれにせよ、シンポやパネルで取り上げたテーマにおいては可及的「秋田宣言」的結論を出していただけるように企画していくつもりであります。

第29回日本呼吸器外科学会総会 開催にあたって

第29回日本呼吸器外科学会総会を秋田の地で開催させていただくことになりました。大変名譽なことで、医局員一同充実した会を目指して全力を尽くす所存です。会期は平成24年5月17日(木)～18日(金)、会場は秋田県民会館、キャッスルホテルです。

テーマは「次代の呼吸器外科医に伝えたいこと―独創的研究と教育充実に向けて―」といたしました。わが国の呼吸器外科水準が世界をリードしていることは申すまでもありません。しかし今後この水準を維持するためには、我が国ならではの発想に基づく研究、手術手技を開発していく必要があるうかと存じます。また我々の先輩が授けてくれた貴重な財産は確実に次世代に伝えなければなりません。呼吸器外科の魅力を将来の呼吸器外科医に伝え、本学会の一層の発展に繋げるべく教育の充実にも力を注ぎたいと考えております。今回は特別企画として「若手呼吸器外科医に伝えたいこと」、「アジアの呼吸器外科の現状」を設定いたしました。日頃見落と

す。以上のような企画で、学術総会を盛り上げていくつもりであります。それ以外にも、秋田は、自然の豊富な地域で。海の幸、山の幸が豊富で、これらも満喫していただけるように頑張つて準備いたしますので、是非、秋田にお越しただければと存じます。

第40回日本血管外科学会 学術総会開催にあたって

このたび、第40回という記念すべき日本血管外科学会学術総会を、平成24年5月23日(水)～25日(金)の3日間、長野ビックハット、若里市民文化ホールおよび長野県社会福祉総合センターにて開催させていただきます。

メインテーマを、AJTMOZON―血管外科の新時代―とさせていただきます。

「人は血管とともに老いる。」これは、W. Osler博士の有名な言葉で、単に加齢だけでなく、血管の老化がいかに人間の健康と深くかわっているかを表した言葉です。近年、増加の一途をたどる血管病に対する予防法や治療法が、ここ数年格段に進歩し、薬物治療や再生医療の進歩をはじめ従来の外科治療に加え、様々なカテーテル治療の発展、大動脈瘤に対するステントグラフト治療の進歩、静脈瘤に対するレーザー治療などにより、一層低侵襲な治療法が可能となり、血管外科医が活躍する領域がますます拡大しつつあります。

本学術総会では、血管外科の新時代」と銘打って、血管外科医を中心にこのような飛躍的進歩をさまざまな医療スタッフが、一人一人の患者さんに最適な医療、より良いテ

ラーメイド治療を提供することを考えていくべき時代と位置付け、時代に適した様々なテーマについて熱く語り、議論したいと考えています。長野市は、善光寺を中心と



天野 純
(信州大学医学部附属病院心臓血管外科 教授)

卒業大学：信州大学
1975年 信州大学医学部卒業
1980年 順天堂大学助手
1983年 ハーバード大学留学
1991年 東京医科歯科大学講師
1995年 信州大学医学部教授
2008年 信州大学医学部附属病院副院長
2011年 信州大学評議員

趣味：鮎釣り、ロードバイク、スキー、農業、新たな趣味をもつこと
好きな言葉：“始めることを忘れなければ人は老いませぬ。75歳を過ぎてからこそ。”

編集後記

安元公正広報委員長の後任を拝命しました。このNEWSLETTERの構成の骨格は時間軸です。坂田理事長の所信は、田林前理事長の「日本の医学会を先導する」という基本理念の継承と具現化へ向かって、いま、JATSがどこについて、何が取り組むべき課題であるか、どのように進むべきかを明確にしています。国単位の臨床成績を世界に発信できる学術組織に至ったJATSの今日は當々と積み重ねられた多くの先生の経験と知恵が伝承されて迎えられたものです。古賀先生の記事は、戦後、欧米に追いつき、並ぼうと先人が努力と創意工夫をされていた時代を表現されています。研修医の時に一度だけ見た臨月に近い妊婦の左心室心尖部から挿入した示指と中指をかつと開いて狭窄した僧帽弁口を拡げるOMCとこれを行う大先輩の豪胆さを思い出しました。

ハードと思われる胸郭外科領域の女性医師も確実に増加しています。女性医師支援の現状と学会が行っている取り組みの記事が男性医師の認識を少しでも変えることにつながれば喜ばしいことです。

優秀論文賞を受賞された新進気鋭の医師たちの貢献はいまのJATSの駆動力です。この道をめざした若手医師の声、そして、新しい取り組みであるサマースクールに参加した初期研修医・学生諸君のボジティブな声は力強いことです。開催予定の関連3学会が、打てば響く、熱い思いの胸郭外科医が多く集う会になることを期待したいものです。



千原幸司
(静岡市立静岡病院呼吸器外科)

卒業大学：京都大学
1978年 京都大学卒業後、京都大学胸部疾患研究所・静岡市立静岡病院胸部心臓血管外科にて胸部外科の研修の後、京都大学大学院を経て京都大学胸部疾患研究所胸部外科助手
1987年
1989年 McGill大学 (Canada) 医学部客員助教授

1991年 静岡市立静岡病院呼吸器外科長
2005年 同 診療部長・呼吸器外科長 現在に至る

趣味：①街道ウォーキング東海道五十三次のべ26日で完歩。現在、中山道信濃路
②読書
好きな言葉：仕事では、将者智信仁勇厳也(孫子)、遊びでは、天地四方これを宇といい古往今来これを宙という(淮南子)、
モットーはFrom the known to an unknown